

新年のご挨拶

院長 松島 聡

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

いよいよ平成も残りわずかとなり、新しい時代の幕が開かれようとしています。平成の30年を振り返ってみますと、日常生活の中でも大きな変化があったことに改めて驚かされます。平成元年に日本に初めて消費税が導入されましたが、この頃にはまだ、インターネットや携帯電話はほとんど普及していませんでした。あの頃どうやって情報を集め連絡を取り合っていたのか不思議な気さえします。医学・医療の分野でもこの30年間に大きな進歩がありました。とりわけ平成24年のノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥先生のiPS細胞や、今年のノーベル生理学・医学賞受賞者、本庶佑先生のがんの免疫療法は、私たちに未来への希望を与えてくれました。

当院はと申しますと、平成元年は前身の国立療養所明星病院として迎えています。平成10年に済生会が移譲を受け、「済生会明和病院」としてスタートしました。平成12年には重症心身障害児（者）施設「なでしこ」が開設され、平成14年には、特別養護老人ホーム明星園の移譲を受け「明和苑」が開設されています。平成16年には明和苑の新築、そして、平成26年明和病院の新築工事が完成し、回復期を中心とするリハビリテーション病院として現在に至っております。また、これらの施設とともに、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション（デイケア）、通所介護（デイサービス）、居宅介護支援センター等を同一敷地内に開設しており、「済生会明和グループ」として、医療・福祉・介護を総合的に扱う施設に大きく発展しました。平成の最終年度である昨年は、地域との連携をより密接にすべく、地域医療連携センターを立ち上げました。また、診療面では、4月から脳ドックを開始することができました。

新しい元号となる今年は、当グループの持つ資源を最大限に活用できるよう大幅な組織改革に着手する予定です。私どもの得意とするリハビリテーションをより充実させたデイケアや、地域包括ケアを見据えた地域連携の強化、外来診療の充実、さらに予防医学や介護予防・健康増進にも力を入れていきたいと思っております。また、健康講座や広報誌、住民参加型のイベントなどで様々な情報発信をしていきたいと思っております。

新しい年を地域の皆様とともに有意義な一年にしたいと職員一同、願っております。皆様の健康と生活を守るべく、良質な医療や福祉・介護を提供できるよう、より一層努めますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様のご多幸を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。